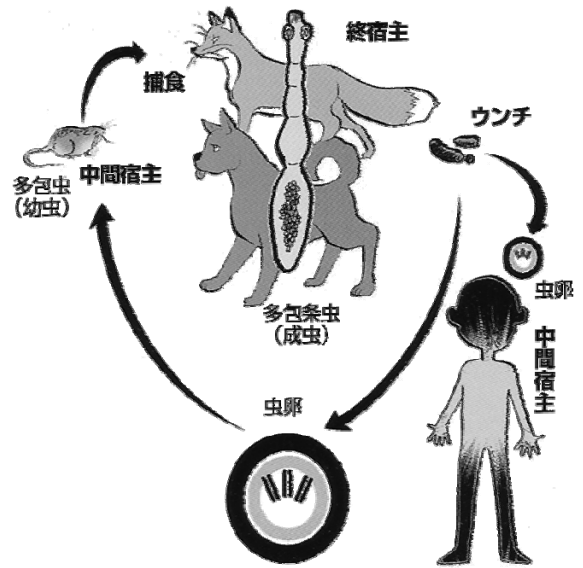


エキノコックス症は怖い？

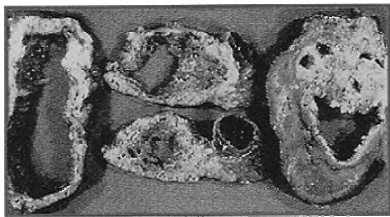
最近、北海道のムツゴロウ王国が東京のサマーランドに移転する問題で、すっかり有名になってしまったのが『エキノコックス症』です。エキノコックス症は、寒い地方に分布しているサナダ虫の一種で、キツネやイヌを終宿主とする人畜

共通の寄生虫症です。通常、人はキツネやイヌの糞便に排泄された虫卵を口に入れることで感染します。イヌの感染は虫卵を口に入れることで感染するのではなく、ネズミなどを食べることで感染します。したがって、ご自分のワンちゃんを感染させたくなければ、ネズミを食べさせないようにすれば良いわけです。簡単ですよ。イヌからイヌへの感染はありません。また、イヌの症状は下痢などの軽いものです。おそらく人がエキノコックスに感染する可能性が一番高いのは、北海道に行って感染しているイヌやキタキツネに触ったり、汚染された沢の水を飲んだりすることではないでしょうか。北海道旅行の際はより注意が必要です。もうひとつが、感染したイヌが北海道からやって来て“ふれあいコーナー”などでお仕事することだと思います。意外と怖いと思います。これがムツゴロウ王国移転で問題になったことです。もし、ご自分のワンちゃんに感染の疑いがある場合、糞便検査をしましょう。ただし、通常の糞便検査では検出できません。糞便を北海道大学に送って、特別に検査してもらいます。結果が陽性と出た場合、駆虫薬で簡単に駆除できますので安心してください。（駆虫薬投薬後も完全に駆除できるまでは便に虫卵の排泄が行われますので十分注意してください。）人が感染した場合、初期には症状がなく末期になれば治療方法がない怖い病気ですが、正しい知識を持っていれば怖くありません。イヌに



エキノコックス症の感染経路

についての詳しくは当院にお尋ねください。
(人については人間の病院にお尋ねください。)



左の写真は、致死的なエキノコックス症を呈した人の肝臓です。無症状の時期から進行期に移り寄生虫が大きくなると肝臓機能に影響を及ぼし、発熱・黄疸・腹部の不快感などの症状が出てきます。さらに放置をすると肝機能不全となり他の臓器にも転移をし、回復は見込めません。

憂鬱な**雨の季節**です。思うように散歩に行けない犬達にとっても、嫌な季節です。皆さんのワンちゃんには、このような行動は見られませんか？

- ☆なんかイライラしている
- ☆よく吠える
- ☆玩具をこわす・振り回す
- ☆吐く
- ☆尾を追いかけクルクル回る
- ☆食欲がない
- ☆下痢をしている
- ☆ひたすら手足をなめる

これはもしかしたら、運動や気分転換が出来ないためストレスがたまっただけからかもしれません。こんな時は上手にストレス解消してあげましょう。（上記の症状の原因はストレスだけとは限りません。ご心配な場合は病院へ。）

ストレス解消には **頭と身体を使う遊びがおすすめ！**

《飼い主と一緒に遊ぶなら》

「かくれんぼ」…人間が隠れワンちゃんに探してもらおう。探すことに夢中になれるように初めは簡単な場所に隠れ、見つけたらおやつ等ワンちゃんの喜ぶものをご褒美にあげると良いですよ！

《一人遊びなら》

「コング・バスターキューブ」

…コングの穴やバスターキューブにワンちゃんの好きなフードやクッキー等を入れて与える。頭を使い上手に動かさないとフードが出てこないバスターキューブや噛み心地の良いコングに夢中！

《リラックスタイムには》

「アロマテラピー」「マッサージ」

…人間もそうですよね。

血液検査シリーズ⑤白血球

今回は血液中の細胞成分の1つである白血球についてです。血液中の細胞成分は赤血球・白血球・血小板の3つで構成されています。その中で白血球はさらに好中球・リンパ球・単球・好酸球・好塩基球に分けられ、一般的にこれらをまとめて白血球と呼んでいます。

【増加する原因】

白血球が増加する原因として主なものは、細菌感染や中毒、腫瘍、炎症などです。具体的には気管支炎・肺炎・白血病・子宮蓄膿症など様々です。また、病気以外にストレス・激しい運動・妊娠などで上昇することもあります。

【減少する原因】

減少する原因として主なものは、ウイルス感染（ネコ汎白血球減少症・イヌパルボウイルス感染症など）・敗血症・急性炎症などがあります。その他にはショックや遺伝性（まれ）によるものもあります。白血球の増加・減少の原因は上で述べた以上に多くの原因があるため、白血球だけではなく、症状にあわせてその他の血液検査やエコー検査、レントゲン検査など必要な検査と総合して評価する必要があります。

わんこ・いゃんこ日記

・・・になってみた

皆さん、エリザベスカラーってご存知ですか？

仕事が終わって雑談…って日常のことなんですが、この日もいつものように皆で話をしていました。すると、櫻井主任の手にはエリザベスカラーがあって、そのカラーはいつの間にか西田の首に！（なぜ?!）しばらくつけておくと熱気でムンムンに…。西田「カラーって暑いんですね。」主任「そういえばワンちゃん達もハーハー言ってるもんね」と発見。カラーってしばらくつけておくと暑いんです。そこで、西田のカラー体験記！



当院で使用しているカラーにはブルーとクリアーがあるので試してみたのですが、暑さはどちらも変わりありません。つける時と、はずす時のボタンのパチパチという音、ガサガサという音が思った以上に大きく響きます。私にとってはクリアーは周りが見えるので、つけてない時とつけた時で、そう変わりがないように感じましたが、ブルーは異様に緊張しました。見える範囲が限られて後ろが全く見えなくなるので何をされるかドキドキです。ワンちゃん・ネコちゃんは偉い!!人間の場合、なぜ自分が病院にいて、今から何をするのか把握する事が出来ますが、ワンちゃん・ネコちゃんはそれが出来ません。いきなり病院に連れてこられ、「〇〇ちゃん、どうぞ」と診察室に呼ばれたら次は診察台にのせられる。逃げないように、落ちないように、じっとしているように保定。「ギャー」と逃げ出したいくなるのは当然ですよね。そこで安全確保のためにカラーが登場です。ブルーのカラーで視野を狭く、周りを見えなくすることで安心する子が多いようです。ここは人間との違いでしょうね…。(あっ、でも人間も注射の時など、注射するところを見なければ大丈夫な人いますよね。それと一緒にかな?) カラーをつけなくてもじっとしている子もいます。とにかく偉すぎます。どちらにせよ、ワンちゃん・ネコちゃんにとって病院はすごくストレスのかかる所。落ち着かないのは普通の事。いっぱい褒めて、いっぱい優しくしてあげましょうね。

私達スタッフも、出来るだけワンちゃん・ネコちゃんにストレスをかけないようにしたいと思っております。ワンちゃん・ネコちゃんの性格、嫌いなこと等、受付の際にお話いただくと助かります。また、食べ物を与えて構わない病気や怪我の場合、少しでも病院好きになってもらうため、診察中におやつをあげる事があります。ご自宅で与えている大好きなおやつがあればご持参いただき、待合室や診察室であげていただいても構いません。(診察や検査内容によってあげられない場合もありますので、あげても良いかは受付にお尋ねください。)



H16.3.1発行 VOL4で紹介した“スッポンモドキ”と呼ばれるカメ。この子達に名前がつけました。

とんきち ちんぺい かんた ⇒3匹そろって“とんちんかん”!!少々昔のアニメではありますが「魔法使いサリー」って皆さんご存知ですか？これに出てくる、よしこちゃんの弟・三つ子

兄弟から頂いたもの。だいぶ大きさ、色などに違いが出てきて区別がつくようになったのです。よく見ると甲羅の形も違うんです。前回、この子達については簡単にしか紹介できなかったので『Part2』ということで、今回もう少しご紹介したいと思います。”スッポンモドキ“の他に別名”フライリーバートートル“”ビッグノーズタートル“”ブタハナガメ“と呼ばれることもあるようです。外見の特徴としてはやはり、スッポンに似ている事ですが、性格は基本的にフレンドリーでご飯と間違えて噛まれる事が多いくらい。スッポンのように攻撃的に噛み付いてくることはないようです。仮に噛み付かれても、小さいサイズの子であればそれ程痛くないくらい。つい最近「どのくらい大きくなるの?」と聞かれたのですが、なんと!!甲長は最大で60~70cm、重さは最大で22Kgくらいになるそうです。長い間育てると、かなり大きくなるようです。(このサイズになるには10年程かかるようですが…)そして、やはり生き物、病気もあるんです。通常何もなければ水の底に沈んでいるのですが、沈もうと下に向かって泳いでも、すぐに浮いてしまう、潜れなくなる病気があります。先日、“とんきち”がこれに似た症状になり、調べてみたところ原因は空気の誤飲が考えられました。治るまで水深を浅くすると良いということ一匹、入院室(入院水槽)で生活していました。すぐ良くなり、今では皆と暮らしています。日に日に成長していく3兄弟?!ですが、どこまでおおきくなるのか楽しみです。これからも“とんちんかん”よろしくお願

